

## 令和4年度 公立瀬戸旭看護専門学校 自己点検・自己評価結果

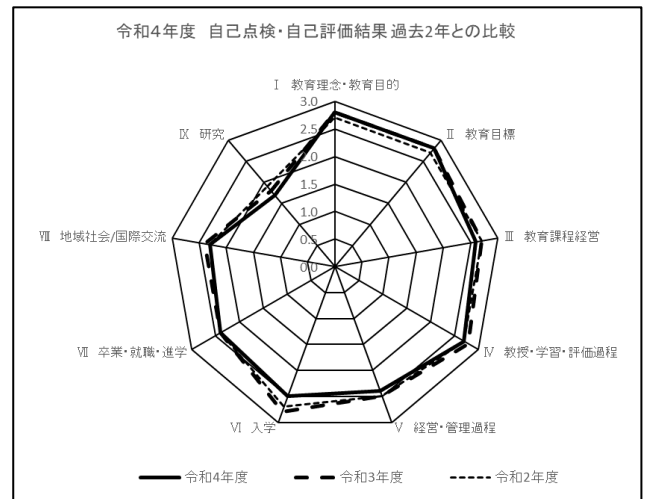
平成30年度より、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に点検項目を決め、自己点検・自己評価委員会を開催し、全教員による評価点数の平均値により自己点検・自己評価を実施しています。さらに、令和元年度より、自己点検・自己評価の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、「学校関係者評価委員」の方々にも評価していただいておりますので、これまでの結果と共に、令和4年度の自己評価内容および学校関係者評価結果を公表します。

### 1. 自己点検・自己評価の結果

点検項目の評価は、「3：当てはまる」「2：やや当てはまる」「1：当てはまらない」の3段階とし、カテゴリー毎に点数を総計し、その平均値を評価の結果としています。

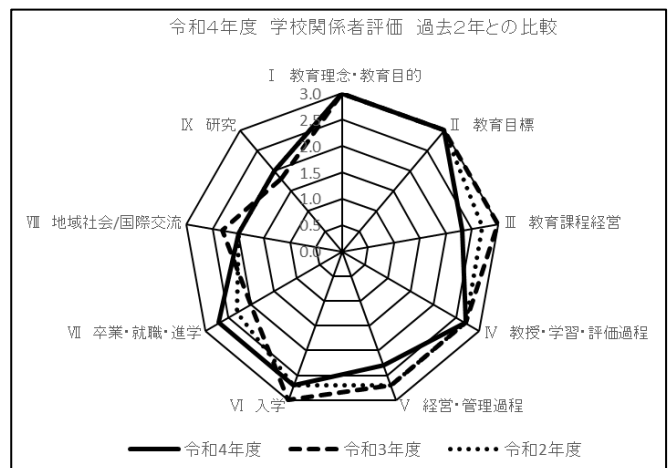
#### 1) 令和2年～令和4年度 内部評価の結果

| カテゴリー          | 項目数 | 評価結果  |       |       |
|----------------|-----|-------|-------|-------|
|                |     | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
| I 教育理念・教育目的    | 11  | 2.8   | 2.8   | 2.7   |
| II 教育目標        | 7   | 2.8   | 2.8   | 2.7   |
| III 教育課程経営     | 31  | 2.6   | 2.7   | 2.7   |
| IV 教授・学習・評価過程  | 17  | 2.7   | 2.8   | 2.7   |
| V 経営・管理過程      | 30  | 2.4   | 2.5   | 2.5   |
| VI 入学          | 2   | 2.5   | 2.8   | 2.7   |
| VII 卒業・就職・進学   | 8   | 2.4   | 2.4   | 2.4   |
| VIII 地域社会/国際交流 | 10  | 2.3   | 2.4   | 2.3   |
| IX 研究          | 3   | 1.7   | 1.8   | 1.9   |



#### 2) 令和2～令和4年度 学校関係者評価の結果

| カテゴリー          | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
|----------------|-------|-------|-------|
| I 教育理念・教育目的    | 3.0   | 3.0   | 3.0   |
| II 教育目標        | 3.0   | 3.0   | 3.0   |
| III 教育課程経営     | 2.3   | 3.0   | 2.7   |
| IV 教授・学習・評価過程  | 2.7   | 2.7   | 2.7   |
| V 経営・管理過程      | 2.3   | 2.7   | 2.7   |
| VI 入学          | 2.7   | 3.0   | 2.7   |
| VII 卒業・就職・進学   | 2.7   | 2.0   | 2.3   |
| VIII 地域社会/国際交流 | 2.0   | 2.3   | 2.0   |
| IX 研究          | 2.0   | 1.8   | 2.0   |



2. 令和4年度 自己評価及び学校関係者評価結果

| カテゴリー          | 自己評価（評価の概要、今後の課題）  | 内部評価点 | 学校関係者評価 |   |
|----------------|--|-------|---------|---|
|                |  |       | 評価委員評価点 | 評価委員意見  |
| ㊦<br>教育理念・教育目的 | <p>教育理念として、設置主体である瀬戸・尾張旭市の地域住民の健康と福祉の向上に寄与すること、人間尊重の精神を持つ感性豊かな看護師を育成することを掲げ、教育目標とともに学生便覧、授業概要、ホームページ、学校案内パンフレット等に掲載している。</p> <p>学生に対しては、教育理念を具現化し、目指す看護師像に到達するための1年間の学習内容に対応した学習目標を提示して、年度始めに学年毎にガイダンスを実施している。</p> <p>教育理念等の学生への浸透については、学生に実施したアンケート結果から、認知度は新カリキュラムの1年生においては前年度より0.6ポイント上昇した。2年次以降の周知させる機会が少ないと思われるので、今後も、学生が常に意識できるように授業や実習など様々な教育活動において意図的な働きかけを継続して行うことが必要である。</p> | 2.8   | 3.0     | 自己評価を支持する。<br>理念の浸透については、学校だけでなく臨地実習の場でも意味づけられるよう意識して取り組むようにしたい。                                  |
| ㊧<br>教育目標      | <p>教育理念・教育目的を基に教育目標を6項目あげ、その目標毎に内容を具体的に明文化している。</p> <p>教育理念に対して教育目的・教育目標は対応しており、一貫性がある。また、教育目標については、社会ニーズに応える内容となっており、教育目標毎に設定意図が明文化されているので学生には理解しやすいものとなっている。また卒業時の到達やゴールとしてディプロマポリシーを掲げている。今年度から新カリキュラムを実施していくにあたり、改正の意図に沿った見直しをし、より具体的な表現とした。ホームページ上に掲載し、学生だけでなく、地域への周知も図っている。</p>  | 2.8   | 3.0     | 自己評価を支持する。  |
| ㊨<br>教育課程経営    | <p>教育課程は、教育理念・教育目的に沿って学習目標や内容を考慮し、序列化して構築している。</p> <p>各授業は、学生が理解しやすいよう工夫し、授業評価を得ながら改善を図っており、科目配列に関しては学生の効果的な学びに繋がるようにしている。</p> <p>前年度より引き続き、コロナ禍による授業内容や評価方法の変更を柔軟に行いながら学習の継続を図ることができた。</p> <p>臨地実習においても、コロナ感染症対策について実習施設と連携しながら、最大限臨地で実施してきた。臨地実習ができなかった時間については、県からの許可を受け、学内で実践活動外学習としての補強を行うことにより、カリキュラムを終了できた。</p> <p>今後も、状況に合わせてより良い教育方法を常に模索しながら実施していく必要がある。</p>                  | 2.7   | 2.3     | コロナ対策により、予定されていた臨地実習が変更したが柔軟に対応できていた。<br>評価・テスト結果が悪い授業の改善はみられない。授業評価を学外講師にも伝達し、より充実した授業を目指す必要がある。 |

| カテゴリー           | 自己評価（評価の概要、今後の課題）   | 内部評価点 | 学校関係者評価 |  |
|-----------------|---|-------|---------|--|
|                 |   |       | 評価委員評価点 | 評価委員意見   |
| ㉔<br>授業・学習・評価課程 | <p>各分野の講義設定の考え方は、「授業概要」に明文化されており、各授業を分野ごとのまとまりとして捉え、構成している。</p> <p>科目毎の評価は、講義内容や試験方法などを専任教員全体で検討した上で、他の関連教科との整合性を保ち、かつ科目の評価も偏らずに行えている。</p> <p>シラバスは、「授業概要」に全科目を掲載しており、学年進級時に変更があれば修正版をその都度配布し、さらに必要であれば詳細な講義計画を初講時に配布している。</p> <p>各科目の内容は明確にしており、他の科目との関連や重複などについても新カリキュラムに伴い、マトリックスを作成し直した。</p> <p>今年度も、授業形態は対面授業を基本とし、地域での感染状況に応じてオンライン授業に切り替えながらの授業を実施した。また、演習も時期を考慮し、密とならない様に方法を工夫することで、可能な限り実技を行うことができた。</p> | 2.8   | 2.7     | <p>国家試験の動向を十分に吟味する必要がある。</p> <p>授業概要は問題ないが、学校と講師の打ち合わせが不十分。学習効果が低い科目がある。</p> |
| ㉕<br>経営・管理課程    | <p>組織体制は、学則・校務分掌要綱において規定している。また、教育活動に関する意思決定については、運営委員会や各種委員会等において審議のうえ校長が決定する体制としており、その決定事項を教職員に周知している。</p> <p>予算については、所定の予算要求手続きを経て決定されるが、設置自治体の財政状況が厳しいことから、要求内容とおりに手当てされることは稀である。このため、要求にあたっては事業の優先順位やもたらす効果などについて十分な検討を行っている。</p> <p>また、予算の執行についても財務規定に則り適正な執行に努めており、毎月、定期監査を実施している。</p> <p>今後も、施設整備や教材備品等の購入を計画的に行い、充実した教育環境を整えるよう取り組んでいく。</p>  | 2.5   | 2.3     | <p>自己評価を支持する。</p> <p>学ぶ環境は非常に重要であり、優先順位を十分に検討すべき。</p>                        |
| ㉖<br>入学         | <p>入学者の選抜については、受験倍率・受験者数の推移を考慮して入学試験（一般・推薦・社会人）を実施しており、入試委員会の審議を経て入学者を決定している。</p> <p>今年度もコロナ禍による様々な感染対策を実施しながら入試を実施した。無症状の濃厚接触者に対しての別室受験も予定していたが、該当者はなく、一般入試で咳等の症状に対する別室受験者1名のみであった。</p> <p>今年度は推薦・社会人・一般入試すべてにおいて受験者数が減少した。質の高い入学者を獲得するために、受験者を一定数以上確保することは重要であり、今後一層、広報活動の充実を図ると同時に、社会情勢を踏まえた入学者の選抜方法を検討していく必要がある。</p>  | 2.8   | 2.7     | <p>自己評価を支持する。</p> <p>他の看護専門学校との状況や広報活動も参考にし、来年度以降も注視していく。</p>                |

| カテゴリー          | 自己評価（評価の概要、今後の課題）  | 内部評価点 | 学校関係者評価 |   |
|----------------|--|-------|---------|---|
|                |  |       | 評価委員評価点 | 評価委員意見  |
| ㊦<br>卒業・就職・進学  | <p>国家試験の合格者割合は、近年 96～100%を維持し全国平均を上回っており、その維持・向上に向けて、計画的に3年間の学習計画を策定し実施している。</p> <p>国家試験対策として、成績不振な学生に対して手厚い個別指導を行っているが、今後も引き続き強化し、合格率 100%を目指していく。</p> <p>卒業生の7～8割は瀬戸旭地域の医療機関に就職している。昨年動向調査を実施し、本校で受けた教育が今の看護師としての活動に活かされているという意見が得られた。次回は令和6年に実施予定である。</p> <p>また卒業生の多くは各医療機関の実習指導者となっており、当校の非常勤講師として後輩の育成に尽力されている卒業生もある。</p> | 2.4   | 2.7     | 自己評価を支持する。<br>就職後のサポートとして、学校での学校での過ごし方を把握したい。情報交換できる体制がほしい。 |
| ㊧<br>地域社会／国際交流 | <p>学生は、環境ボランティアとしての清掃活動を全学年で行い、地域におけるボランティア活動として、実習病院での催しや各種イベントへも参加・協力している。今年度もコロナ禍により中止のものがあったが、状況に応じてできる限り参加している。</p> <p>教員による専門分野を活かした社会貢献としての、外部機関への講師として派遣、専任教員養成講習会・臨地実習指導者講習会の講師や教育実習については実施ができた。</p> <p>国際的視野を広げるため、国際看護の基本理念の理解やその方法を考える授業を取り入れ、災害看護担当の外部講師による特別講演なども実施し、学生に国際交流への関心や意識を高めるよう努めている。</p>              | 2.4   | 2.0     | 外部講師による特別講演を定期的に行うことでの学生の意識の高まりを期待する。<br>アフターコロナの取り組みに期待する。 |
| ㊨<br>研究        | <p>全ての教員が、いずれかの研修会や学会等に参加できるように年間計画を立て実施している。今年度もコロナ禍により予定していた研修が一部中止になったが、オンライン開催となったものには参加できた。</p> <p>組織的・計画的な研究活動の実施体制は、十分とは言えない現状がある。授業研究に繋がるような学校内での積極的な授業参加は、年々件数が増加してきており、教員各自の授業実践力の向上にはつながっている。</p> <p>今後も引き続き教員の研究活動が組織的に行える体制づくりを検討していく。</p>  | 1.9   | 2.0     | 自己評価を支持する。<br>教員の研修参加等は教育にとっても重要であり、実践してほしい。                |